

学力向上アクションプラン

(厳木中) 学校 平成27年3月2日現在

| 項目 | チェック内容 | A | B | C | D | 現状と課題 | 今後の取組み |
|------------------|---|---|---|---|---|---|--|
| ① 課題提示 | 単元全体の見通しと現在地の把握 ※児童生徒に学習の道筋を理解させているか、前時の復習をさせているか。 | | ○ | | | ・単元の見通しをもたせようとする意識はできてきたが手立てが不十分な面がある。 ・復習は時間の確保が課題。 | ・単元計画表と振返りがセットになったシートの工夫 ・他校との連携により効率的な計画作り |
| | 本時の学習課題の把握 ※児童生徒に解決すべき本時の課題を明確に把握させているか。 | ○ | | | | ・教科によっては見通しを視覚化する工夫ができています。 | ・教科を貫く取り組みを進めたい。 |
| ③ 学習活動 (課題解決) | 個別の課題解決学習 ※課題解決の時間や場を確保しているか。 | | ○ | | | ・教科によって個別の活動時間の確保がまちまちであるが、教師の意識は高まっている。 | ・生徒の学力に合わせた課題の提示など、個に対応できる課題を工夫する。 |
| | グループによる課題解決学習 ※課題解決に向け、複数意見からひとつの意見にまとめるような話し合いの場を仕組んでいるか。 | | ○ | | | ・グループワークへの教師の意識が高まり、教科の特性に合わせた取り組みが進められるようになってきた。 | ・言語活動を深める課題の与え方や話し合いのさせ方などに工夫が必要。 |
| | クラスによる課題解決学習 ※各グループの意見を生かした話し合いを仕組んでいるか。 | | ○ | | | ・グループから報告者を立てて発表して意見交換をするという場面が見られるようになってきた。 | ・クラスワークは現状では教師進行となることが多く、少しずつ生徒にゆだねられるようにしていく。 |
| | 教師による解説、解決、解答 ※児童生徒の学びを深め、理解不足を補う説明を行っているか。 | | ○ | | | ・正しいゴールにたどり着かない場合があり、その場合は丁寧に解説しなければならなかった。 | ・発展的な内容に関しても解説したり、興味を引き出せるような解説も必要。 |
| | 子どもの最終的な記述(表現) ※本時の学習課題と対応した記述(表現)をさせているか。 | | | ○ | | ・十分な時間が確保できなかったり、深まりがなかったりすることがあった。 | ・本時の課題を意識した記述ができるよう指導する。 |
| | 学習の振り返り ※学んだことの整理や自己評価の場を設定しているか。 | | | ○ | | ・時間の確保が難しいことがあった。 | ・タイマーを活用するなど時間配分をうまくやる。 |
| | 条件に応じた記述(書く力) ※条件付きの書く活動を授業の中に仕組んでいるか。 | | | ○ | | ・国語科や英語科では条件を付した作文に取り組みしたが、他の教科ではうまく取組が進められなかった。 | ・テストだけでなく、授業のまとめなどに活用して記述力を高めたい。 |
| ⑩ その他 | 言語活動を活発にする教育環境 ※学習活動を活発にするために掲示物等の教室内外の環境を工夫しているか。 | | ○ | | | ・ICT利用やワークシートの工夫等は進んできた。 | ・教室・廊下などの環境についても検討したい。 |
| | ノート指導 ※学校や教師の指導の意図を反映させたノート指導を行っているか。 | | | ○ | | ・思考の過程が見えるノートになっていない。 | ・ワークシートとの併用で困難性もあるが工夫したい。 |
| | 学習規律 ※児童生徒に学習規律を理解させ、主体的に守らせようとしているか。 | | ○ | | | ・学校全体で統一した取り組みが不十分であった。 | ・統一した取り組みを進めたい。また、小中連携を生かした取り組みも進めたい。 |
| | 家庭学習 ※単元の指導内容や方法と結びついた課題を出しているか。 | | | ○ | | ・課題がマンネリ化しているケースが見られ、予習・復習につながる課題が出せていない面がある。 | ・調べ学習なども課題に取り入れたたい。 ・基礎基本の定着を期した課題も計 |
| | 学習内容の定着 ※学年間・小中間における教科の系統性を見通し、復習の時間を計画的に仕組んでいるか。 | | | ○ | | ・復習が不十分である。また、小中の系統把握が不十分な面も否めない。 | ・小学校との連携を推進すると共に家庭学習で定着を図れるよう取り組みを進める必要がある。 |
| その他の取組み | 職員の授業改善に関する意識が向上し、厳しい自己評価をするようになった。 来年度は生徒の課題解決力を育成するために「生徒指導」「生徒会活動」などもあわせて自己解決力、自治力を育てていきたい。 | | | | | | |